

かしこさ部会

1. 取組の柱

- 1 子どもどうしのかかわりを通して、思考力・表現力を高める。
- 2 国語科で学んだ論理的な説明の仕方を算数科など他教科に生かす。

(1) 昨年度の成果と課題

昨年度も、「児童が自ら考えたいくなる・表現したいくなる授業」を目指して取り組んできた。その結果、児童が意欲的に学習の見通しや課題を持ち、自分の考えを書いた後、発表する姿が見られた。また、ペア対話で話すべき内容を厳選し、全体で考えを共有する時間を充実させることによって、新しい生活様式の中でも子どもどうしのかかわりを生かした授業を行った。全校を対象とした学習アンケート「自分の考えを書けていますか。」の問いに対して学年にばらつきはあるが、87.5%の児童が肯定的評価となった。また、「自分の考えを伝えることができますか。」の問いに対して82.9%の児童が肯定的な回答をしている。つまり、児童の学習に対する意欲はおおむね高く、課題提示の工夫や全員参加を意識した授業作りによるものと考えられる。

また、昨年度から「論理的に思考し表現する力」を高める取組を始めた。しかし、「論理的思考力」をどのように捉えるのか、どのような説明が「論理的な説明」なのか曖昧さが残ってしまったので、今年度は、論理的に思考・表現させることができる場面を選び、具体的な児童の姿で明らかにしていきたい。

(2) 取組の柱の設定理由

①「子どもどうしのかかわりを通して思考力・表現力を高める」について

相手に自分の考えを正しく伝え納得してもらうためには、具体的でわかりやすく話しなければならない。このときに必要になってくるのが、論理的な思考力・表現力である。思考力・表現力は、自分の考えを伝えたいと思う相手や場面がなければ育てることはできない。つまり、相手意識・目的意識を大切にしたい子どもどうしのかかわりの中でこそ育てることができると考えられる。そのためには、授業の中で教師が意図的に児童の発言や考えをつなげたり、かかわる機会を設けたりしなくてはならない。児童が仲間とつながろうとするための教材研究や授業展開、発問が不可欠である。そして、仲間と関わるためには他者の考えを聞き、自分の考えと比較しながら重ねたり反論したりと思考することで表現する必要がある。このようなかかわりを通じたその経験と積み重ねこそ、思考力・表現力に結びつくのだと考える。新しい生活様式が求められる中でも、そうした授業を日々積み重ねていくことで、主体的に考え、自分の考えや思いを表現しようとする児童が育つのではないだろうか。

これが、「子どもどうしのかかわりを通して、思考力・表現力を高める」という一つの柱の設定理由である。

論理的思考力とは、「比較・順序・条件・仮説・関連・類推などの認識の方法を身につけ、整理・分析・活用することで課題解決に向かう力」であり、教科独自で育てられる教科内容と同じように系統的に指導するものである。

そこで本校では、育成したい主な思考力として

- ・低学年…順序立てる力
- ・中学年…比較する力
- ・高学年…関係づける力・推論する力

とする。そして、お互いの考えを理解し合うためには、適当な思いつきではなく、叙述や経験を根拠とした理由を示す力も中学年から育成したい。(国語科の場合、理由は低学年から。)

②「国語科で学んだ論理的な説明の仕方を算数科など他教科に生かす」について

これまで本校は、「国語科・算数科を中心に言語の力を育成し、思考力・表現力を高める」ことを目標に実践を積み重ねてきた。しかし、国語科で身につけた力が、他教科・領域や実生活に生きて働く力であるという考えを基にしながらも、国語科と算数科の関連を意識した研究が十分でなかった。そこで、二つ目の取組の柱を「**国語科で学んだ論理的な説明の仕方を算数科など他教科に生かす**」とし、国語科・算数科双方から関係性を探りながら、論理的に思考し表現する力を伸ばす授業づくりに取り組む。

まずは、「論理的に説明する力」、つまり「筋道の通った説明の仕方」について研究を行う。つまり、算数科の立場からは、「どのような説明ができることを求めるのか」具体的なイメージを提示し、それが、国語科のどの領域のどの単元の学習に関連しているかを探る。そして、国語科の立場からは、「論理的に説明する力」をつけるための授業をどのように行うのか、いつ、どのような形で定着・習熟を行うのか、朝の会やぐんぐんタイム、他教科での活用場面を具体的に示し、実践を行う。

しかし、算数科において思考力・表現力を育てるとき、話し方や聞き方の指導にならないように留意していかなければならない。つまり、授業の中で「具体物、図、言葉、数、式、グラフなどを用いて考えたり説明したり、互いに自分の考えを伝え合ったりする」などの活動を積極的に取り入れていきたい。学習指導要領解説(算数編)では、「数学的な見方・考え方」とは、事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えることとしている。つまり、児童の問いから学習のめあてをつくり、数量や図形及びそれらの関係などに児童自らが着目し、友達とのかかわりのなかで数学的な考え方を働かせながら問題解決に向かうような授業を目指していかなければならない。そして、単元の終わりには、児童が何を学んだのか、どのようなことができるようになったのか、自覚できるような振り返りの時間を大切にし、つながりを意識した学習活動を展開していきたい。単元の中で身に付けさせたい思考力・表現力とは何か、どの段階で働かせられるか、授業実践を通して整理していきたいと考えている。

数学的な考え方：思考の進め方や方向性

- 論理的に考える…帰納的に考える，順序よく考える，根拠を明らかにする
- 統合的に考える…関連付ける，既習と結び付ける
- 発展的に考える…条件を変える，範囲を広げる，新たな視点から捉え直す